

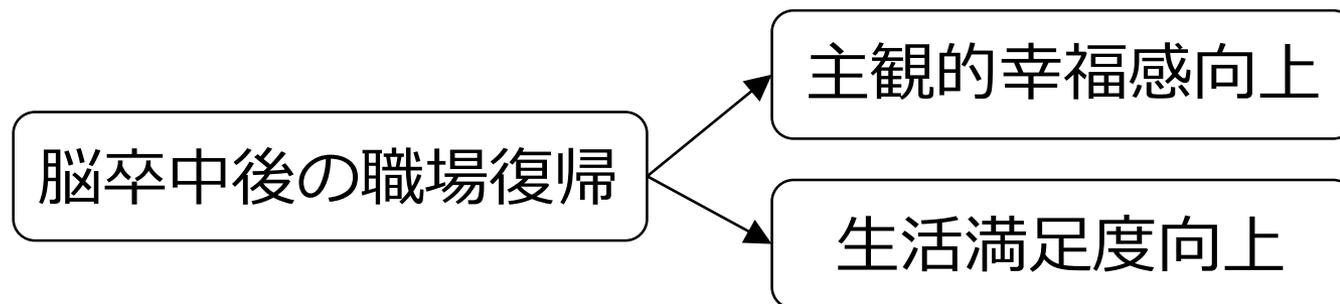


kisei-kai

キャリア中期の脳卒中患者の 「働く意味」再構築のプロセス －復職に焦点をあてて－

- 日下 真由美 (成城リハビリテーション病院)
- 八重田 淳 (筑波大学 人間系)

I. 背景



(Vestling, 2003)

■ 日本の状況

復職率

平均約45% (適切な支援により約67.7%)

うち発症前の職場に復帰 約80%

(豊田ら, 2019 ; 豊永, 2010)

復職後の勤務継続率

5年勤務継続率 約59%

※大企業を対象とした調査結果

(遠藤, 2017)

I. 背景

一定のキャリアを積んでから発症すると、
発症前の職業的アイデンティティの崩壊が起こる。

(障害者職業総合センター, 2022)



回復が順調であっても
長期的なカウンセリングが必要となる。

(Possl et al. , 2001)

Ⅱ. 目的

キャリア中期※の脳卒中患者が
病前の職場で再び働く意味を見出すまでのプロセスを把握し、
職場定着に至るまでの支援のあり方を検討する

※キャリア中期

Superのライフステージ（サブステージ）『確立段階（向上期）：キャリアパターンが明確になるにつれて、職業生活における安定と保全のための努力がなされる。多くの人にとって創造的な時期。』とする

Ⅲ. 方法

■ 研究協力者

31歳～44歳の時に発症した脳卒中で身体障害及び高次脳機能障害を呈した後、病前に雇用されていた職場に復職をして1年以上経過をしている者 2名

■ データ収集方法

インタビューガイドを用いて対面での半構造化面接を実施し、研究協力者の同意を書面にて得てICレコーダーに録音して逐語録を作成した。

■ 分析方法

1ケースのデータなど比較的小さな質的データの分析にも有効であるSCAT(Steps for Coding and Theorization)を用いて分析を行った。SCATにより分析しストーリーラインと理論を記述後、KJ法を参考に概念をサブカテゴリー・カテゴリーに分類した。

医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院および成城リハビリテーション病院倫理委員会の承認を得て実施した。

IV. 結果

分析の結果、74の概念が7カテゴリー・19サブカテゴリーにまとめられた。

(1) 病前の働く意味

【職場との相互作用】の中で【仕事のキャリア】をつみ、【人生における仕事の位置づけ】を行っていた。

(2) 病前と病後の連続性

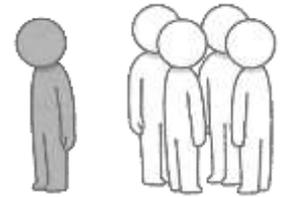
予期せぬ病気の発症により【仕事の病前と病後の連続性の断絶】と【親役割の理想と現実の葛藤】が生じる。そのような状況の中でも【止まらない時間と家族としての成長】があり、『生きる意味の答え探し』を行う。そして、『生きる意味の答え探し』と【連続性の承認を実感する職務】が、【自己の病前との連続性の承認】となり『職場における存在価値の実感』につながる。

IV. 結果

(3) 目に見えない病気・障害

脳卒中・高次脳機能障害という『目に見えない病気・障害』による【五里霧中の苦しみ】と【レッテル貼りの見方】が生じる。

これらは休職中だけでなく復職後も継続する。



(4) 虚無感と生きる力の喪失

『病前と病後の連続性の断絶』と『目に見えない病気・障害の課題』により、【否認による自己防衛】を行い【社会の中での孤立感】を抱く。

(5) 生きる意味の答え探し

【仕事の病前と現在の断絶】や【親役割の理想と現実の葛藤】により『虚無感と生きる力の喪失』となるが、【止まらない時間と家族としての成長】と【連続性の承認を実感する職務】により、社会的相互作用による価値観の広がりを感じ、【職場での関係性の模索】と【脳卒中経験の意味づけ】を行う。

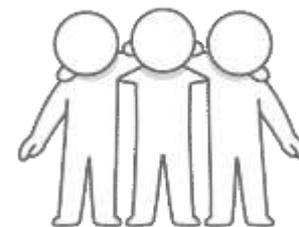
IV. 結果

(6) 職場における存在価値の実感

『目に見えない病気・障害』の課題は継続しつつも、『生きる意味の答え探し』による【自己の病前との連続性の承認】と【連続性の承認を実感する職務】は、【自己効力感と貢献の実感】と【社会とのつながりの確信】となる。

(7) 多様な社会貢献

『職場における存在価値の実感』により【働く意味の再構築】につながる。また病気・障害の経験を通して、仕事だけでなく【脳卒中経験者としての社会貢献】も考える。



V. 考察

キャリア中期の脳卒中患者



病前の労働価値観の変容が求められる状況が生じ、生きる意味をも喪失する



病前からの連続性を
自分も周囲も
承認している実感



働く意味再構築の
力になる

休職中だけでなく復職後における病前と病後の連続性の承認が重要

難しさの背景

復職後に脳卒中・高次脳機能障害という見えない病気・障害



家族や職場（=当事者にとって大切な環境）が、力にも障壁にもなる

V. 考察

キャリア中期の脳卒中患者の復職支援

<目標>

- ・当事者が再び働く意味を見出すことができる
- ・環境変化等により再び困難が生じた際にも、当事者・家族・職場で対処したり、適切な支援機関に相談ができるようになる



当事者のアセスメント

病気・障害に関するアセスメントだけでなく、
現在・過去・未来の「働く意味」も含む心理社会的側面のアセスメント
を復職後も繰り返し行い支援する

家族・職場（環境）へ

病気・障害の特性の理解を促すとともに

- ・当事者の心理的変容
- ・病前～病後の連続性の承認が力になる ことを伝え、
当事者の力を引き出す環境となるよう支援を行う